

富岡鉄斎と高島のつながり

富岡鉄斎 没後100年

高島での交流

近代日本を代表する文人画家である富岡鉄斎は、天保7年(1836)京都三条室町衣棚町の商家の次男として生まれました。

鉄斎は幼い頃、病で耳が不自由になり、商いの道に進むことはできなくなり、学問が好きだったので、商人道徳を説いた石門心学を中心に勉学に励みました。また独学で多様な絵画技法を身につけ、多くの絵画作品を生み出しましたが、画家と呼ばれることを嫌い、儒学や国学、仏教なども広く学び、儒学者としての立場を貫きました。大正13年(1924)12月に、数え年89歳で亡くなるまで、鉄斎は生涯の大半を京都で過ごしましたが、幾度となく高島の地を訪れたことが分かっています。

鉄斎は30歳前後から、交流のある知人が住む新旭町太田を複数回訪れています。明治28年(1895)に大田神社(新旭町太田)の氏子から依頼され、鉄斎が書いた社名を刻んだ標石や、明治32年(1899)に建てられた大荒比古神社(新旭町安井川)の記念碑など、現在も市内各所に鉄斎ゆかりの史跡を見ることが出来ます。

鉄斎は学んだ学問の中でも、幕末から明治初期にかけて活躍した儒学者である春日潜庵(1811~1878)に教わった陽明学に大きな影響を受けました。その実践の教えを日本の陽明学として広めた中江藤樹を尊敬していました。このため、明治17年(1884)8月と明治30年(1897)9月25日の藤樹先生250年祭には藤樹書院に書を納めています。また、大正13年(1924)5月、藤樹神社社掌の小川喜代蔵からの依頼によって、「清溪洗心図」を藤樹神社に納めており、この作品の賛(絵画作品の上部に書き込まれる詩文)には、王陽明の言葉が引用されています。

陽明学との出会い

鉄斎は学んだ学問の中でも、幕末から明治初期にかけて活躍した儒学者である春日潜庵(1811~1878)に教わった陽明学に大きな影響を受けました。その実践の教えを日本の陽明学として広めた中江藤樹を尊敬していました。このため、明治17年(1884)8月と明治30年(1897)9月25日の藤樹先生250年祭には藤樹書院に書を納めています。また、大正13年(1924)5月、藤樹神社社掌の小川喜代蔵からの依頼によって、「清溪洗心図」を藤樹神社に納めており、この作品の賛(絵画作品の上部に書き込まれる詩文)には、王陽明の言葉が引用されています。



清溪洗心図 藤樹神社蔵

もに賛が書かれています。鉄斎は日頃から、「私の描いたものを見るなら、まず賛を見よ。」と語り、作品に込められたメッセージを残そうとしたようです。

岡文化財課

☎(25)8559



大田神社の標石

鉄斎の多くの作品には、絵と

編集感

10月は秋ということで、おいしい食べ物、文化・芸術などいろいろなことが盛りだくさんな時期ですが、皆さんは何の秋を満喫していますか？私は、スポーツの秋ということで、9月に引き続いて、11月に行われる国スポリハーサル大会を観戦しようと思います。身近なところでそれぞれの競技のトップクラスの選手たちの活躍を見ることが出来る貴重な機会なので、皆さんもぜひお越しください！(K)

広報たかしま

令和6年

10

月号 No.297

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課

〒160-0801 滋賀県高島市新旭町北畑5の10番地

☎0740(25)8000(代)
🌐<https://www.city.takashima.lg.jp>
✉t-info@city.takashima.lg.jp